

# 私立 昭和女子大学

## 私立 昭和女子大学短期大学部

取組名称 緊急課題への対応と実社会連携型キャリアビジョン育成プログラム

取組担当者 進路支援センター長 武藤 空男

### 1. 本学の概要

昭和女子大学の前身、日本女子高等学院は1920(大正9)年、先生と生徒が生活を共にして学ぶトルストイの学校になって、「愛と理解と調和を旨とする新しい女性を育む学校を設立したい」という希望を持った創立者人見圓吉を始めとする5名の同士によって創設された。

日本女子高等学院は1946(昭和21)年に日本女子専門学校となり、1949(昭和24)年には新学制による大学として現在の「昭和女子大学」に移行した。また、今回の共同申請者でもある短期大学部を翌年の1950(昭和25)年に設立した。

現在は、世田谷キャンパス内には大学院として文学研究科及び生活機構研究科を、大学として人間文化学部、人間社会学部及び生活科学部の3学部を、そして短期大学部を設置しており、約5,200名の学生が在籍している。

本学の建学の精神は「世の光となろう」という呼びかけに託されている。「世の光」とは、周囲の人々との間に調和の取れた良い関係を作り、良い影響を与え合い、貢献することを意味し、周りを明るく照らす「ろうそくの光」に例えている。また、この建学の精神を実践するための「清き気品、篤き至誠、高き識見」を校訓三則として掲げ教育目標としている。

### 2. 本取組の概要

就職活動を取り巻く様々な緊急課題に対応するために、本学では以下のような取組を行っている。

学生の活動状況の把握や大学から学生への連絡をタイムリーに行うため、データ処理を中心とした既存の就職支援システムに代えて、情報発信型のシステムへと移行しその強化を図る。

内定取消者や未内定者等をフォローするために、従前の職員による学生面談に加え、新たにキャリアカウンセラーを配置し個別相談体制を充実させ、就職活動の見直しや新たな企業発見へとスムーズに導く。

今春卒業予定の学生を募集している求人企業を開拓するために、電話による企業への採用状況の確認を徹底に行い、ひとつでも多くの求人情報を学生に提供する体制を整える。

卒業生に向けて現況調査を行い、既存の卒業生データを最新のものにする。同時に在学生への公開を承諾してくれたOGのみ名簿化し、その情報を在学生へ提供する。また、OGとの密着したネットワークを構築することで、様々なキャリアで働く女性を活用したワークショップ等を開催して、ロールモデルとなる卒業生と在学生との交流機会を設けることで、学生が早くからキャリアビジョンを確立し、積極的に就職活動に取り組めるような環境を提供する。

従来の座学講座に加え、より実践的な参加型講座(アサーション講座、プレゼンテーション講座等)を開催して、学生の能力開発を通じた就職力アップを図る。

このように、学生が大学で備えるべき基礎力やコミュニケーション能力を、自覚し能動的に学習し、さらには生涯を通じた自己成長の必要性を認識できるような教育体制の強化が本取組の概要である。

### 3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

#### (1) 取組の趣旨・目的

本取組は、学生が経済・雇用情勢の急変に翻弄され疲弊することを予防・軽減し、有効かつ適切な情報提供と援助体制の整備を図ることにより、早期に内定を獲得させること、就職率を向上させることを目的とする。併せて、従来培った教育システムを生かしてOG交流会等を開催し、女性ロールモデルによるキャリア教育の推進を図るとともに、学生が能動的に実社会の様々な状況を知ることで自己のキャリアビジョンを育み、社会性を涵養して学士力を確保することを目的とする。

#### (2) 達成目標

本取組は、内定取消し等の学生の被害救済に道筋をつけるとともに、未内定者へ迅速に就職情報を提供し、

早期に内定を獲得できるように就職力をアップさせ就職率の向上を図る。また学生がOGとの交流や各種キャリア支援プログラムを通じて社会とのつながりを認識しながら勉学に励み、将来のキャリア形成に向けて能動的に学生生活に取り組むことでニート予備軍ゼロを目指す。

#### 4. 本取組の具体的内容・実施体制

##### (1) 取組の具体的内容

##### (i) 求人情報の提供システムの改善

企業がインターネットを利用して求人票を本学にデータ発信し、タイムリーに学生に提供する新システムを導入する。学生がこのシステムを利用して企業へ応募することにより、応募状況や内定状況などの情報が把握でき、より効率的で充実した就職指導が可能となる。従来の求人票処理業務の作業量も軽減し、これを学生指導の充実に回せるメリットは大きい。

##### (ii) 内定報告書の検索システム化

今までペーパーで提出させていた内定報告書を全てPDF化し、新システムを通じて閲覧可能な環境を提供する。新システム導入後はペーパーレスとし、学生に直接入力させる方法に切り替え、システムを通じて学生の就職活動の状況を把握することができる。また学生は、いつでもどこからでも先輩の就職成功モデルを学ぶことが可能となり、自己の就職活動を充実させ、実効性を高めることができる。

##### (iii) OG名簿の作成

現在のOG名簿は卒業時の就職先と連絡先が記載されているが（個人情報のため公開を承諾した者のみ記載）その後の追跡調査を行っていないため、データが古くなり、在学生が問い合わせをした際にすでにその企業に在籍していない例も少なくない。

そこで卒業生に対して勤務調査を行い、就職担当部門（進路支援センター）、同窓会事務局、並びに各学科等で把握している卒業生の住所情報、勤務情報等を基に、最新のOG名簿を作成し就職活動を行う学生にOG訪問を奨励する。これにより多くの学生が実社会の状況を正しく把握して就職活動を行うことが可能となり、職業意識の向上、業界・企業の研究を促進させ、ミスマッチの解消を図る。

##### (iv) キャリアネットワークの構築

OGデータを基に大学とOGとのキャリアネットワークを構築することで、企業で活躍するOGをゲストとしたキャリア講座を展開する等、OGロールモデルとの交流を通じたキャリア教育の実を上げる。



写真1 OGとの交流会（模擬面接風景）

##### (v) キャリアカウンセラーによる相談体制の充実

昨今の就職状況を反映して、就職活動に対する不安や悩みを抱える学生が急増している。従来から進路支援センター職員による個別面談を行っているが、その対応が追いついていない状況を改善すべく、水曜日から金曜日まで各日一人、キャリアカウンセラーを外部委託し、進路相談体制の充実を図る。

##### (vi) 求人企業の開拓

就職ナビサイトでの就職活動が主流になっている昨今、そこからの求人情報だけで就職活動を行ってきた学生も多く、大学に直接来る求人情報にあまり目を向けられない学生が増えている。（大手有名企業にしか目が向かない）その結果、昨今の就職状況と相まって就職未内定の学生が非常に多い中、この時期に大学に来る求人情報も少なくなっておりその対応に苦慮している。

そこで卒業年次生の緊急支援策の一つとして、中小企業を中心に採用情報を求めて、電話による求人企業の開拓を行っている。そのためのテレフォンプライム要員を1名外部委託し、様々な企業データから大学として紹介できる事業内容を持つ企業をセレクトし徹底的に情報収集を行い、必要に応じて適宜企業訪問を行い、ひとつでも多くの求人情報を学生に提供する体制を整えている。

##### (vii) 産学情報交換・交流会の開催

インターンシップ受入企業、学校推薦求人を含めて就職実績が高い企業の採用担当者との産学情報交換・交流会を開催することで、インターンシップ受入企業の拡大を目指すとともに、卒業生を多く採用している企業との相互信頼関係を強化し、求人数の拡大を図る。特に、インターンシップの充実により、学生の職業意識のさらなる醸成を図り、学生が自分らしい生き方を自らデザインできるように支援を強化する。



写真2 産学情報交換・交流会（学長の挨拶）



写真3 グループディスカッション講座

（viii）就職スキルアップ講座の実施

学生力育成の一環として、従来の座学講座に加え、より実践的な参加型講座（グループディスカッション講座、アサーション講座、プレゼンテーション講座等）を開催し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、個々の学生が専攻する学問へのモチベーションや自らの能力開発を通じて就職力をアップさせることにより充実した学生生活と希望する就職決定を実現する。

（ix）学科主催キャリア支援講座の実施

本学の教育の特徴である本学所有施設での宿泊教育及び各学科の授業カリキュラムの充実策として、実務家、OGロールモデル等を講師に迎え、グループワークを主体とした授業を行う。これにより、各学科の専門性の涵養と実社会が求める人材像を具体的に学生に示し、学生がこれを理解、実践することでキャリア教育の充実を図り、教育力の向上と学士力を高める。

《昭和女子大学キャリア支援体系》

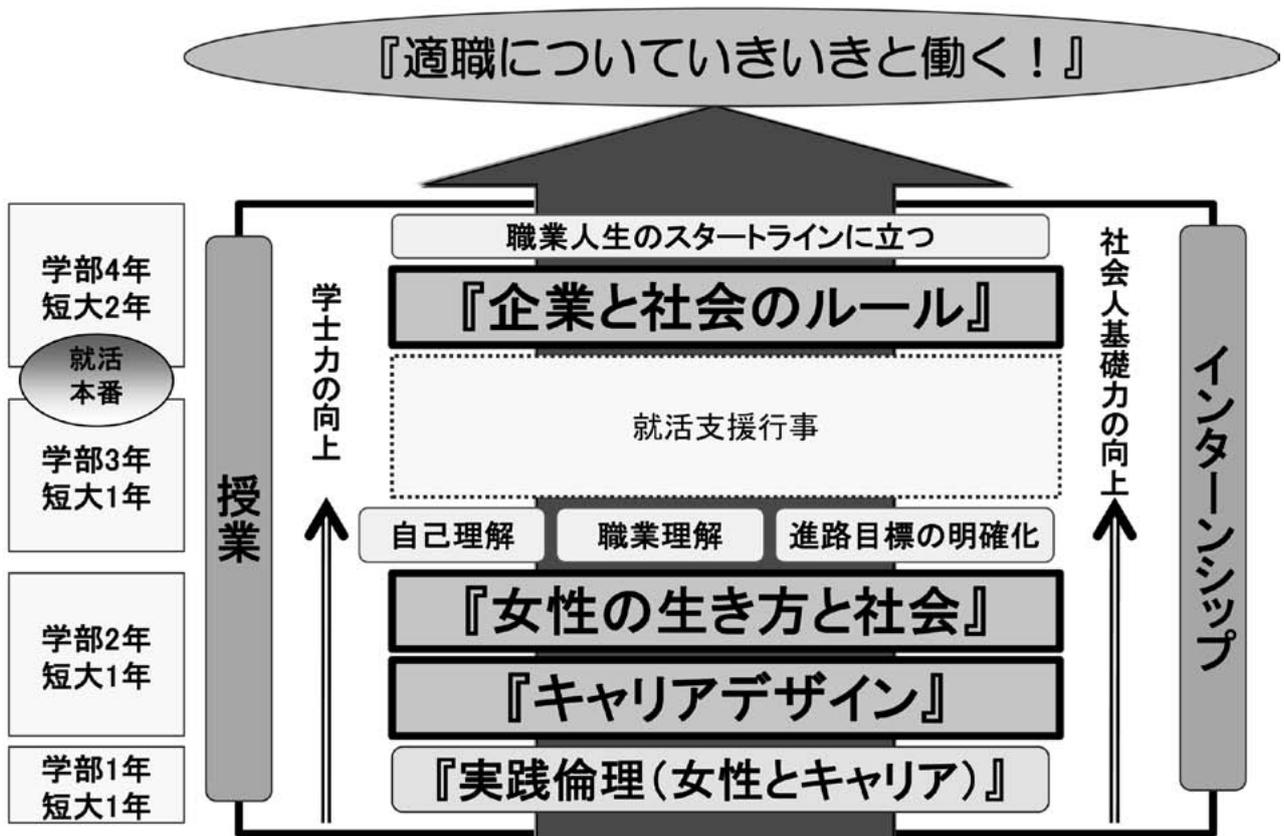


図1 昭和女子大学におけるキャリア教育科目体系

複数の大学等での共同の取組

(x) キャリアサポート通信の作成と発信

学生支援推進事業の取組内容を題材とした学生向けのキャリアに関する情報誌「キャリアサポート通信」(季刊)を作成し、全学生と教職員に配付し、イベント・就職支援予定情報や学生の意見等を広く伝えることで、初年次から学生のキャリアに関する啓発を全学的に促し学生のキャリア開発を推進する。併せて、教職員全員へ配付することで、日常的に授業・指導にあたる教職員が学生と情報を共有し主体的にキャリア支援を行う環境を創り実効性を高める。

(xi) キャリア教育科目の導入と実施(図1参照)

全学共通のキャリア教育科目を導入し、初年次教育からの体系だったキャリア科目群として整備する。これにより、年次ごとの到達目標を学生に示し、学生が自己の専門性と将来の職業ビジョンを意識して、自己啓発に励み、夢を実現する基礎力を養い、目標を達成するプロセスを組み立てる能力を涵養する。

(2) 取組の実施体制(図2参照)

本取組では「学生支援推進委員会」を新設し、全学科の担当教員で構成する既設の「キャリア支援委員会」と連携して全学的な活動を推進する。学生と日常的に関わるクラスアドバイザーと推進委員会とが密接に情報交流することで、緊急時に確実に学生を支援できる体制を整える。事務は進路支援センターが担当し、取組状況を定期的に委員会へ報告する。

企画・実施・運営・評価



図2 実施体制・評価体制イメージ図

するものとする。事務は進路支援センターが担当する。

(2) 取組の評価方法

評価方法としては就職支援プログラム実施毎のアンケート調査及び毎月の内定率調査を実施し、継続的に定量評価、定性評価を行うこととする。

6. 本取組の実施計画等

(1) 実施スケジュール

本年度の本取組の実施スケジュールは、おおよそ次のとおりである。

- (i) 求人情報の提供システムの改善→9月～3月
- (ii) 内定報告書の検索システム化→9月～3月
- (iii) OG名簿の作成→1月～3月
- (iv) キャリアネットワークの構築→11月～3月
- (v) キャリアカウンセラーの配置→11月～3月
- (vi) 求人企業の開拓→11月～3月
- (vii) 産学情報交換・交流会の開催→11月
- (viii) 就職スキルアップ講座の実施→10月～3月
- (ix) 学科主催キャリア支援講座の実施→10月～3月
- (x) キャリアサポート通信の作成と発信→3月
- (xi) キャリア教育科目の導入と実施→11月～2月

(2) 財政支援期間終了後の展開

本取組の事業は「キャリア支援委員会」との連携で推進し、積み上げた経験や実績は同委員会へと引き継ぐものとする。また、本取組で試行する女性ロールモデルによる実社会連携型キャリア教育は、本学における初年次からのキャリア形成教育に体系的に位置づけしていく計画である。

5. 本取組の評価体制・評価方法

(1) 取組の評価体制(図2参照)

本取組では、企業関係者、学外キャリアアドバイザー、同窓会関係者、キャリア支援委員会等による評価委員会を組織する。本委員会では進捗状況を確認し、必要な場合は修正を加える等、緊急課題に対応する柔軟な体制を確保する。また、「学生支援推進委員会」では毎年1回報告書を作成し、取組の事例・状況等を公表